

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 伝統校（1906～）、総合学科（1996～）、共生推進教室設置校（2020～）の3つが揃う日本唯一の高校としての強みを生かし、校訓「誠実剛毅・和親協同」のもと、「磨け知性・輝け個性」の理念を掲げた教育を実践し、様々な社会的変化をたくましく乗り越えるための知性や体力、自分らしさや他者への思いやりを大切にする豊かな心と健やかな身体を育み、大きな夢と高い志を持って持続可能な共生社会を創る人材を育成する学校。 【生徒に育みたい力】 ○伝統校として…「誠実剛毅」の校訓のもと、大きな夢と高い志を持ってタフに学び続け、自らの進路を切り拓く力。 「和親協同」の校訓のもと、自主自律の精神を重んじて、ともに切磋琢磨し、清清澆刺とした校風を創る力。 ○総合学科高校として…「磨け知性・輝け個性」を理念とし、学際的な学びを通じて個性を伸長し、自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力。 ○共生推進教室設置校として…ともに学びともに高め合う感性と高い人権感覚を育み、多様性を尊重し、「人・社会・世界」と繋がり共生社会をリードする力。
--

2 中期的目標

1. 「誠実剛毅」×「磨け知性」…誠実な態度で学びに向かい、剛毅な姿勢で学び続け、高い志を持って自らの進路を切り拓く力を育成する （1）高い知性と確かな学力の育成 ア 「知識・技能」を礎に「思考力・判断力・表現力」を重点的に育成し、「主体態度」を養う授業実践を進める。 イ 1人1台端末等のICTや学習支援クラウドサービス、Web会議システム等の活用を推進し、すべての生徒の基礎学力の定着を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断（以下生徒自己診断）において、「先生方は教え方に工夫をするなど授業に熱心」の肯定率を令和8年度には88%以上にする（R3：81%、R4：84%、R5：86%）。「授業で自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくあった」で90%以上を維持する（R3：89%、R4：94%、R5：93%）。「本校は有効にICT機器を活用している」で90%以上を維持する（R3：85%、R4：88%、R5：90%）。 （2）豊かな知性を磨く教育課程の編成 ア 教科横断的で学際的な学校設定科目の設置等、総合学科の特長ある教育課程を編成し、包括的に事象を捉える能力を伸長し論理的思考力を養う。 イ 学習指導要領、高大接続改革に対応した多様な分野の進路実現を可能にする教育課程を編成し、きめ細やかな科目選択指導を行う。 ※ 生徒自己診断「科目選択の決定についての説明や相談は十分であった」の肯定率85%以上を維持する（R3：86%、R4：89%、R5：85%）。「選択科目について選びたい科目を選べた」で85%以上を維持する（R3：79%、R4：83%、R5：86%）。「選択科目は自分の進路選択とのつながりに満足している」を令和8年度には85%以上にする（R3：79%、R4：84%、R5：80%）。 （3）主体的に粘り強く学び続ける力の育成 ア 学びが中心の規則正しい生活習慣を確立させ、全ての授業について主体的に意欲をもって粘り強く取組む態度を養う。 イ 学力生活実態調査や教育産業による学力分析システムを活用し、生徒一人ひとりの学習状況や課題を把握し、適切な指導や支援を行う。 ウ 自習室や学校図書館等の学びの環境整備を進めて積極的活用を促し、生徒の自学自習を支援する。 ※ 遅刻者数をR8年度に3,000回以下にする（R3：2,697回、R4：3,847回、R5：4,056回）。生徒自己診断において「学ぶことの意味について考え授業を大切にするようになった」の肯定率を令和8年度には85%以上にする（R3：81%、R4：82%、R5：82%）。「家庭学習を毎日した」を令和8年度には40%以上にする（R3：27%、R4：35%、R5：36%）。 （4）キャリア教育の充実及び進学実績の向上 ア 3年間を見通した進路指導によって高い目標と明確な目的意識を育成し、生徒の興味・関心、適性・個性に応じた進路選択を支援する。 イ 大学や企業等との連携、専門的知識や技能を有する人材の活用等の体験型進路学習を充実し、生徒の主体的なキャリア形成を支援する。 ウ 国公立大学や難関私立大学進学を目標とする指導を充実し、進路指導部が統括する組織的な進学講習や教育産業の講習の活用等、学力向上を促す。 ※ 生徒自己診断において「今宮総合学科で学んで自分の進路選択ができた」の肯定率を令和8年度には85%以上にする（R3：73%、R4：77%、R5：80%）。「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった」を令和8年度には85%以上にする（R3：80%、R4：84%、R5：84%）。「学校の授業・講習等だけで進路実現に必要な力がついた」を令和8年度には70%以上にする（R3：57%、R4：68%、R5：67%）。「大学について理解することができた」を令和8年度には90%以上にする（R3：86%、R4：88%、R5：88%）。 ※ 京大・阪大・神大・大阪公立大などの国公立大学への合格者数を令和8年度には40名以上とする（R3：18名、R4：19名、R5：25名）。 ※ 関関同立＋近、早慶上＋MARCHの合格者の合計を令和8年度には160名以上とする（R3：136名、R4：130名、R5：122名）。 2. 「和親協同」×「輝け個性」…自主自律の精神を重んじて、ともに切磋琢磨し、清清澆刺とした校風を創る力の育成 （1）自主自律の精神の醸成 ア 18歳成年を認識し、規範意識の向上など社会の一員としての基本的姿勢を養い、集団生活において責任をもった議論や行動ができるよう育成する。 イ 消費者教育の充実やゲームやギャンブル等に依存しない教育を推進するとともに、健全で適切な勤労観や職業観を醸成する。 ※ 生徒自己診断において「自分は積極的にルールの遵守やマナーの向上に努めた」の肯定率90%以上を維持する（R3：85%、R4：91%、R5：93%）。「今宮高校で学んで人として成長した」を令和8年度には90%以上にする（R3：84%、R4：87%、R5：88%）。 （2）生徒自治会を中心とした組織的な学校行事の企画・運営等による将来をみすえた自主性・自立性の育成 ア 生徒自治会主催の学校行事等において、民主的で組織的な企画・運営が遂行できる生徒集団を育成する。 イ 生徒による「服装自主規制」の精神を尊重し、生徒の規範意識やマナーの向上を生徒自身が考え行動する態度を養う。 ※ 生徒自己診断において「学校行事やホームルームは活発で積極的に関わった」を令和8年度には85%以上にする（R3：75%、R4：83%、R5：83%）。「自分は文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加した」で90%以上を維持する（R3：83%、R4：89%、R5：91%）。 （3）部活動の充実 ア 自主性を尊重した部活動の運営を推進する。 イ 部活動による学校間連携や地域連携や活動の成果を発表する機会を拡充し、生徒が主役の魅力ある学校づくりを推進する。 ※ 「自分は部活動を熱心に取り組んだ」を令和8年度には75%にする（R3：68%、R4：72%、R5：70%）。

3. 自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力の育成

(1) 探究学習の充実

- ア 1 年次「産業社会と人間」及び2、3 年次「未来探究」において、「問いを立てる力」、「考える力」、「まとめる力」、「発信する力」を育成する。
- イ SDGs について当事者意識をもって取組み、地域や大学と連携して審査や助言を受けながら学びを深め、高いレベルの発表ができるよう指導する。

(2) 情報リテラシーの育成

- ア 正しい情報を収集、選択、活用する知識と技能を習得し、体験や経験に基づくオリジナリティ性をもって編集、発信する能力を育成する。
- イ 生成 AI などの新たな技術やサービスを適切に利用する資質を養う。
- ※ 生徒自己診断「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」の肯定率を令和8 年度には 80%以上にする（R3：65%、R4：76%、R5：72%）。『産業社会と人間』や『未来探究』では探究的な学びができた」を令和8 年度には 85%以上にする（R3：80%、R4：84%、R5：84%）。

4. 多様性を尊重し、「人・社会・世界」と繋がり共生社会をリードする力の育成

(1) 共生推進教室を中心に仲間づくりを進め、「ともに学び共に育つ」インクルーシブ教育を推進する。

- ※ 生徒自己診断『「ともに学びともに育つ」大切さを学ぶ機会があった」の肯定率を令和8 年度には 90%以上にする（R3：69%、R4：85%、R5：85%）。「互いに認め合い協力して良いクラスづくりを進めることができた」で 85%以上を維持する（R3：77%、R4：85%、R5：85%）。

(2) さまざまな人権問題に取り組み、自他の尊厳や多様性を尊重し、互いの違いを認め合い共に生きる教育を推進する。

- ※ 「命の大切さや社会のルール、人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」で 90%以上を維持する（R3：91%、R4：92%、R5：92%）。

(3) 国際交流活動の充実及び外国語運用能力の向上

- ア アメリカ、オーストラリア、台湾の姉妹校との交流を通じて親交を深め、異国の文化や伝統等を理解し尊重する態度を養う。
- イ 国際交流ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校との交流を通じ、生徒の視野を広げ、地球規模の諸問題に挑戦する技量を養う。
- ウ 英語4 技能を総合的に伸ばす英語教育を推進し、2 年終了時までに英検2 級レベル以上の英語運用能力の習得をめざす取組みを組織的に行う。
- ※ 「本校は国際交流に力を入れている」で 90%以上を維持する（R3：51%、R4：62%、R5：90%）。「本校はユネスコスクール・SDGs の取組みを推進している」を令和8 年度には 85%以上にする（R3：78%、R4：82%、R5：77%）。
- ※ 英検2 級以上の合格者を令和8 年度には 40%以上とする（R4：7.1%、R5：8.8%）

(4) 令和6 年度学校経営推進費事業『風を起こす』―すべての人を大切に、真に共生社会をリードする人材育成校の実現と発信～ともに学び、ともに育つインクルーシブルームとリラックスルームの設置」の実施

- ア インクルーシブルーム、リラックスルームを活用した生徒の居場所づくりを進め、支援教育及び教育相談に係る教育力向上や体制づくりを進める。
- イ インクルーシブルームを利用して「仲間の会」を中心とした総合学科と共生推進教室の生徒との交流を深め、地域を交えたイベントを開催する。
- ウ インクルーシブルームを活用して、アクティブ・ラーニングや視覚支援、共同学習等の授業を実践し公開する。
- ※ ①共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感（10 段階の満足度）8.7 以上
②「仲間の会」の定例会を毎月開催し、ルームを活用した懇親会等のほか、主催するイベントを年6 回以上行う。仲間の会会員 25 名以上。
③学校教育自己診断（生徒）での「障がいのある人たちと『ともに学び、ともに育つ』大切さを学ぶ機会がある」の肯定率 92%以上
④学校教育自己診断（生徒）での「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率 75%以上
⑤学校教育自己診断（保護者）での「子どもは心身の健康について気軽に先生に相談できた」の肯定率 77%以上
⑥学校教育自己診断（教職員）での「本校がめざす学校像を実現するため同僚性を高め協力して教育活動を行う」の肯定率 90%以上
⑦教職を志す生徒数（教員養成課程等の大学進学者数）8 名以上（R5：3 名）
⑧本事業の成果報告会の実施

5. V(変動性)U(不確実性)C(複雑性)A(曖昧性)の時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成

(1) めざす学校像や育てたい生徒像の実現に向けて、すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場づくりを進める。

- ア 分掌・学年・教科の持続可能な協働体制を確立し、すべての教職員が主体的に学校運営に参画し働きがいを感じる教職員集団を組織する。
- イ すべての生徒の安全・安心を確保し、様々な危機管理体制を整備するとともに、SC やSSW を活用する等、生徒との対話を重視した体制をつくる。
- ウ 喫緊の課題に対応できる O（観察 Observe）O（情勢判断 Orient）D（意思決定 Decide）A（行動 Act）ループを可能にする教職員集団をつくる。
- エ 人権教育や防災教育、授業改革や ICT 活用の推進、生徒指導や進路指導のスキル向上など教職員の資質向上に寄与する研修を効果的に実施する。
- オ ICT を活用した会議運営や情報共有等の業務の効率化や生産性の向上を進めるとともに、全校一斉定時退庁日を徹底し、働き方改革を推進する。
- ※ 教職員自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている」の肯定率 80%以上を維持する（R3：59%、R4：68%、R5：84%）。「運営委員会は十分に機能している」で 90%以上を維持する（R3：72%、R4：83%、R5：96%）。「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」で 80%以上を維持する（R3：63%、R4：76%、R5：90%）。「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」で 90%以上を維持する（R3：83%、R4：79%、R5：96%）。「本校は計画的に人材育成を行っている」で 65%以上を維持する（R3：41%、R4：50%、R5：73%）。「いじめ防止基本法に基づいて、いじめについて適切に対応している」で 90%以上を維持する（R3：92%、R4：89%、R5：98%）。「本校は地震や災害の際の対応を十分に知らせている」で 90%以上を維持する（R3：73%、R4：78%、R5：92%）。「本校は有効的に ICT 機器を活用している」で 90%以上を維持する（R3：94%、R4：94%、R5：98%）。「施設・設備については日常的に点検や管理が行われている」で 90%以上を維持する（R3：71%、R4：80%、R5：96%）。生徒自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」の肯定率を令和8 年度には 85%以上にする（R3：74%、R4：82%、R5：80%）。「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」を令和8 年度には 70%以上にする（R3：60%、R4：67%、R5：66%）。「本校では地震や火災の際の対応は知らされている」を令和8 年度 80%以上にする（R3：68%、R4：72%、R5：79%）。
- ※ ストレスチェックの総合指数 90 以下を維持する（R3：111、R4：102、R5：76）。

(2) 社会に開かれた学校づくりの推進

- ア ホームページを充実させ、SNS、配信動画サービスを活用するとともに、学校説明会や中学校訪問を充実し、本校教育実践の公開に努める。
- イ 対面形式に加え、学習支援クラウドサービスやメール配信サービスを利用した保護者への情報発信をきめ細やかに行う。
- ウ PTA、同窓会との連携を強化し、力を合わせて魅力ある学校づくりを進める。
- エ 土曜教養講座や地域連携の取組みを充実し、地域に貢献する学校づくりを進める。
- ※ 保護者自己診断「学校のホームページなど広報活動は充実していた」の肯定率 85%以上を維持する（R3：72%、R4：78%、R5：85%）。「学校は教育

府立今宮高等学校

情報について提供の努力をしている」で 85%以上を維持する（R3：74%、R4：78%、R5：86%）。「PTA 活動は活発である」で 90%以上を維持する（R3：82%、R4：86%、R5：93%）。生徒自己診断「本校は様々な地域の活動に参加・貢献している」の肯定率を令和8年度には 75%以上にする。（R3：62%、R4：73%、R5：72%）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
学校生活をより充実したものとするため、生徒、保護者の皆様と教職員に対して、学校教育活動や取組みに関するアンケート「学校教育自己診断」を12月中旬に実施。 【今年度の傾向】質問項目は生徒44、保護者34、教職員46。うち肯定的回答の割合が前年度より増加した項目は、生徒42（95.4%）〔R5：50.0%〕、保護者31（91.2%）〔R5：55.9%〕、教職員34（73.9%）〔R5：71.7%〕であった。今年度は生徒及び保護者について90%を超える項目で前年度より良い結果になった。今年度は、当初より「風を起こす」をスローガンに掲げ、様々な学校改革の取組みを行ってきた成果が、生徒や保護者に実感として伝わっていると評価できる。 【学校満足度】生徒①、保護者①ともに「今宮総合学科で学んでよかった」は過去5年間で年々増加し、今年度は、生徒①90.6%〔R5：89.1%〕、保護者①93.3%〔R5：90.7%〕と高い水準を維持している。また、生徒②「学校生活や学校行事においても総合学科らしさを感じることができた」は92.3%〔R5：87.2%〕、保護者②「この学校には他の学校にはない特色があり、独自の教育活動に取り組んでいた」は92.3%〔R5：88.6%〕とこの5年間ではじめて90%を超える肯定的回答が得られた。（1）伝統校、（2）総合学科、（3）共生推進教室設置校の3つの特長を生かした共生社会のリーダー育成校としての教育方針を明示し、具体的な取組みを進めてきたことが、他校にはない特色づくりを行っていると認知されたといえる。また、昨年度の台湾姉妹校との交流に続き、今年度7月にはコロナ禍で途絶えていたアメリカ・ワシントン州の姉妹校の学生が来校し親交を深めることができた。次年度は両校がそれぞれ訪問することが決まっているほか、オンライン交流も視野に入れた国際交流活動を推進する。生徒⑳、保護者㉔「本校は国際交流に力を入れている」は生徒92.8%〔R5：90.0%〕、保護者94.7%〔R5：84.8%〕とその成果が大きく表れている。また、生徒㉒、保護者㉓「学校の施設・設備に満足できた」は生徒86.2%〔R5：83.4%〕、保護者79.4%〔R5：77.9%〕と前年度より上昇し、概ね高い満足度が得られている。今年度学校経営推進費事業によるインクルーシブルーム及びビラックスルームの整備、DX加速化推進事業による食堂スペースの多目的化リニューアル工事を進めており、本校の特色づくりに努めているところである。 【学習・進路指導等】生徒㉑「先生方は教え方に工夫をするなど授業に熱心だった」は86.4%〔R5：86.4%〕と高い水準を維持しており、6年前〔R1〕の69.3%から大きく上昇している。また、生徒⑥「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」は85.7%〔R5：81.6%〕、生徒⑦「学校の授業・補講等を受けることで進路実現に必要な力がついた」は82.8%〔R5：66.6%〕と顕著な上昇が認められるが、保護者⑤「学校の授業・講習等だけで進路実現の力が付いた」は40.5%〔R5：38.2%〕と大きな乖離が生じた。これは、生徒⑧「家庭学習を毎日した」36.4%〔R5：36.0%〕、保護者⑥「子どもは家庭学習を毎日している」38.3%〔R5：38.7%〕が示すとおり、家庭学習習慣が定着していない生徒が依然多いことに起因すると考えられる。このことは学力生活実態調査の結果からも裏付けられており、自学自習の習慣をつけることが喫緊の課題となっている。生徒の自学自習の習慣づけや、授業等で学んだ内容の発展的学習を生徒が自立して進めることについては、課題を出して成績に反映させるなどの負荷をかけないと継続した学習ができない生徒が多数いる状況を打破して、高い志を持って学び続ける生徒集団をつくる効果的な仕掛けを考えたい。生徒③「自分は今宮高校で学んで人として成長した」90.1%〔R5：87.7%〕、生徒㉒「自分は今宮総合学科で学んで自分の進路選択ができた」88.4%〔R5：81.4%〕は前年度より大きく上昇した。生徒⑮「自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった」84.0%〔R5：81.7%〕、生徒⑬「大学について理解することができた」90.9%〔R5：88.4%〕、生徒⑭「働くことの意味や職業について考え理解が深まった」87.4%〔R5：84.0%〕といずれも顕著な上昇が認められ、前年度までの上げ止まりの傾向から脱して生徒の主体的な進路選択がなされるようになってきたと言える。このことは、総合学科の肝である科目選択にかかるガイダンス機能が十分に作用していたか、それによって生徒一人ひとりの意に沿った科目選択ができたかの評価によるところが大きい。生徒⑱「選択科目の決定についてのガイダンスは十分であった」88.9%〔R5：85.6%〕、生徒⑳「進路希望や科目選択の指導はきめ細かく適切に行われた」89.7%〔R5：87.1%〕、進路関係の情報提供については、生徒⑩「学校は将来を考えたり調べたりするきっかけや情報を提供している」90.9%〔R5：87.9%〕、生徒㉑「学校には進路指導室など将来を考えたり調べたりする設備や環境が整っている」86.1%〔R5：83.9%〕、保護者⑦「学校は生徒の進路指導について熱心に取り組んでいた」80.8%〔R5：71.2%〕、保護者⑨「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」75.4%〔R5：73.7%〕と、進路決定や科目選択にかかる情報提供や指導についての評価はすべての項目で上昇している。その結果、次の通り生徒の科目選択の満足度も高まったといえる。生徒⑲「科目選択は自分の進路選択とのつながりに満足している」85.7%〔R5：79.6%〕、生徒㉑「選択した科目については選びたい科目を選べた」86.9%〔R5：85.9%〕。科目選択は、系列に係る教育課程編成上の制限や教員数の問題などがあり、もともと全生徒の希望を叶えるものではないが、進路決定と科目選択をリンクさせたガイダンス機能は総合学科の肝であり、次代を先取りした新たな学校設定科目の設定や、生徒のニーズに合致したカリキュラム・マネジメントを検討し続けることが肝要である。 【探究的学習・人権教育の推進等】本校の1年次「産業社会と人間」及び2、3年次「総合的な学習の時間」は、3年間で5単位実施している。その中で進路ガイダンスやクラスづくりに関わることの時間も確保しているが、「探究的学習」及び「人権教育」を柱とした学びを展開している。1、2年はグループで、3年は個人でテ	【第1回〈R6/6/21〉】 ○DX加速化推進事業にかかる改修について ：食堂スペースを120名収容できる学びの場に改修する。大型ビジョンや追尾カメラ、高性能の音響設備を完備し、オンラインでの国際交流や高大連携事業のほか、様々な生徒の発表の場として活用する。また、今日まで取り組んできた今宮教養講座の拡充や共生推進教室設置校としてのインクルーシブ教育の推進など、コミュニティスクールとして地域に開かれた学校づくりの拠点とする。さらには、100名規模の進学講習や生徒の自習スペースとしても活用する予定。 ・ブックカフェのイメージで改修できれば、生徒のニーズに合致する「学びの場（セッション）」になる。高校で実現できれば素晴らしい。 ○近隣保育園との地域連携について 社会へ参画することで、地域に貢献する意識や行動力を養ってもらいたい。 ○海外姉妹校提携について ・アメリカ・ワシントン州キャミアック高校、オーストラリア・ケアンズ・トリニティアングリカンスクール、台湾臺東女子高級中学の3校と提携しているが、コロナ禍で途切れていたが、昨年度は臺東女子高宮中学が来校、今年度はキャミアック高校が来校する予定。盛んだった交流活動を復活させる。 ・ニュージーランドでは共生社会が日本より進んでいる。その学校との姉妹提携できれば共生社会を学ぶ機会になれるので開拓してもよいのでは。 ○前年度大学入試の状況や今年度の大学入試の傾向について ・総合型選抜の定員を増やす傾向がある。具体的な対応策は考えているのか。 ○2年生（総合学科28期）未来探究中間発表について ・確かなエビデンスに基づいた発表を期待している。結果の根拠（データ・数字など）を探究してほしい。 ○修学旅行（総合学科28期）について ・沖縄を学び、大阪とのつながりを見つけると深い学びの機会になる。 【第2回〈R5/9/26〉】 ○「私達まつり」について ・自彊会報（同窓会報）で、「私達が立っている場所」を受講していた卒業生コメントが素晴らしかった。授業で学んだ「今宮高校で学んだこと」「言葉で表現することの大切さ」がとても伝わった。 ・25年に及ぶ本校の特色ある学際的なレベルの高い学校設定科目を学んだ生徒が、現在社会人としてどのように生かされているかについて、集約し考察する取組みは大変興味深い。 ○2年次「未来探究」中間発表について ・自分事になっていない部分を自分事として考察することが必要。 ・課題について俯瞰的に捉え、様々な原因や他との関連性との気づきの中で、「Why（なぜ）」をもっときちんと抑えて進めるべき。論拠の筋道が短絡的である。 ・利他的に「人のために何ができるか」という視点をもつべき。そもそも初めに探究の進め方について、さらに指導を行う必要があるのでは。 【第3回〈R6/1/16〉】 ○令和6年度2年次未来探究発表会について ・去年より頑張っている印象。中間発表を見るこ

府立今宮高等学校

ーマを決めて探究学習を行い、3年は10月下旬に、1、2年はクラス予選を経て1月に学年全体で発表会を実施している。今年度は、2年で「大阪のまちを住みよくする」をテーマに、各クラス10班の計60班に分かれて、それぞれが具体的な課題について学び、夏期休業中に地域の様々な仕事や活動をされている方とアポイントを取って出向き、指導・助言を仰ぐ等行った。1/16（木）には、浪速区長をはじめとする15名の外部の方を審査員としてお招きし全体発表会を実施した。3年間の探究的学習の枠組みは概ね完成形に到達したと評価でき、生徒からも一定の高い肯定的回答が得られている。しかし、多くの班において課題について俯瞰的に捉えること、関係するさまざまな事象について論理的思考を重ねることができているとは言い難い。限られた時間ではあるが探究的学習の方法について、さらに指導を行う必要がある。生徒④「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」78.2%〔R5:72.2%〕、生徒⑪「この学校の授業では自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくあった」89.5%〔R5:93.1%〕、生徒⑳「未来探究では探究的な学びができた」87.7%〔R5:84.1%〕、生徒㉑「『産業社会と人間』『未来探究』では研究や発表など創意工夫できる機会を豊富にもつことができた」90.6%〔R5:81.6%〕。社会における様々な人権問題について外部講師を招くなど継続して積極的に進めてきた。また、5年前に共生推進教室設置校となり、インクルーシブ教育をリードする実践校としての取組みを進めているところである。一朝一夕にはいかないが、本校の重点項目である「共生社会をリードする人材育成」を果たすべく心豊かな人権感覚を育成する教育を継続的に進める。生徒㉒「命の大切さや社会のルール、人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」94.6%〔R5:91.8%〕、生徒㉓「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった」89.4%〔R5:85.4%〕。また、その際、生徒に対して本質的な内容に触れた指導が行われるように教職員に対する研修を十分に行う必要がある。人権教育推進委員会を軸に今年度はフィールドワークを行うなど取組みの成果が一定得られた。教職員㉔「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について全教職員で話し合っている」84.6%〔R5:84.3%〕

【生徒指導等】 生徒㉕「自分は互いに認め合い協力して良いクラスづくりを進めることができた」89.5%〔R5:85.4%〕、生徒㉖「学校行事やホームルーム活動は活発で積極的に関わっていた」86.1%〔R5:83.1%〕、生徒㉗「学校ははじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88.9%〔R5:88.2%〕、生徒㉘「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」81.9%〔R5:80.8%〕、生徒㉙「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」74.5%〔R5:66.4%〕と、全ての項目において前年度より肯定的回答が増加した。教職員のサポートを受けながら、概ね生徒が主体的に働いて良好な人間関係やクラスづくりが進められていることが伺える。生徒㉚「学校における生徒指導等や遅刻防止、服装の規律保持などの指導には納得できる」73.0%〔R5:65.5%〕、生徒㉛「自分は積極的にルールの順守やマナーの向上に努めた」91.7%〔R5:92.7%〕。前年度当初に遅刻の定義を厳格化し、電車の僅かな遅延（10分以内）を正当な理由から除したため遅刻数は増加したが、今年度は寝坊等の理由で遅刻を重ねる生徒数が顕著に減少するなど、多数の生徒はルールを守って規則正しい生活ができている。保護者からも前年度より高い支持が得られており、生徒一人ひとりの内面に切り込みながら、安易に生徒に迎合することなく今後も粘り強い指導を進めていく。保護者㉜「学校は生徒に対する生活指導や遅刻防止、服装の規律保持などによく取り組んでいた」87.9%〔R5:83.1%〕

【行事・部活動・コミュニケーション】 生徒㉝「自分は文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加した」91.4%〔R5:90.7%〕、保護者㉞「子どもは文化祭・体育祭・宿泊行事などの学校行事に積極的に参加していた」93.6%〔R5:91.3%〕と、生徒、保護者ともに90%を超える高い数値を維持している。文化祭では浪速区内の2幼稚園の園児約100名と保護者を初めて招待し、生徒のクラス企画や部活動発表、PTA企画等が活発に行われ盛況であった。生徒㉟「この1年間、自分は部活動を熱心に取り組んだ」70.5%〔R5:70.2%〕、保護者㊱「この学校の部活動は活発であった」84.1%〔R5:87.5%〕、生徒㊲、保護者㊳「本校は部活動基本方針に沿って部活動が行われている」生徒84.1%〔R5:83.3%〕、保護者81.1%〔R5:86.4%〕と、部活動においても基本方針に沿って7割を超える生徒が熱心に取り組んでいることが伺えるが、前年度より下がった項目については詳しい分析が必要である。また、保護者との連絡や連携については、前年度に引き続き多くの項目で肯定的回答の割合が上昇した。保護者進路説明会のオンデマンド配信や、学年や分掌単位でホームページや学校支援クラウドサービス等を利用して、連絡事項の伝達や教育の取組みをきめ細やかに発信してきたことの成果が認められる。また、今年度は日々の教育活動や学校の様子をブログで紹介し、ありのままの今宮高校を発信してきた。今後も丁寧な連絡、連携に努めたい。保護者㊴「学校は進路についての情報をよく知らせてくれた」76.4%〔R5:73.7%〕、保護者㊵「学校のホームページなど広報活動は充実していた」95.1%〔R5:84.7%〕、保護者㊶「学校が出す文書・事務連絡などは適切であった」93.9%〔R5:91.1%〕、保護者㊷「学校は保護者が授業を参観する機会をよく設けていた」82.0%〔R5:73.6%〕、保護者㊸「学校は教育情報について提供の努力をしている」92.5%〔R5:86.1%〕

【学校運営等】 教職員㊹「本校がめざす学校像を実現するために教職員は同僚性を高め協力して教育活動を行っている」84.6%〔R5:84.3%〕、教職員㊺「運営委員会は十分に機能している」96.2%〔R5:96.1%〕、教職員㊻「本校は計画的に人材育成を行っている」84.6%〔R5:72.5%〕、教職員㊼「校内研修組織を確立し計画的に研修が実施されている」92.3%〔R5:90.2%〕に見られるように、教職員の組織体制に関する項目は大きく上昇した前年度よりさらに上昇した。一方、教職員の危機管理意識や学校としての備えや体制に関する項目については、前年度より肯定的回答が減少した項目があった。直ちに原因を検証し改善に努めたい。教職員㊽「施設・設備については日常的に点検や管理が行われている」84.6%〔R5:96.1%〕、教職員㊾「本校は地震や災害の際の対応を十分に知らせている」90.4%〔R5:92.1%〕。ただし、これらは積極的肯定の回答率は継続して大きく上昇しているので、保健部や安全衛生委員会、事務室等を中心とする積極的な取組みが、教職員の危機管理意識の向上に一定繋がっていると評価できる。教職員㊿の積極的肯定率36.5%〔R5:29.4%、R4:14.5%〕、教職員㊽の積極的肯定率48.1%〔R5:33.3%、R4:21.8%〕。教職員㊿「この学校ははじめ防止基本法に基づいていじめについて適切に対応している」100%〔R5:98.0%〕、教職員㊽「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が

とができて、そこからの発展（頑張り）を感じた。

- ・プレゼン力は昨年より大幅によくなっている。時間をかけて準備してくれていると感じた。
- ・展開が整理されていて分かりやすかったが、課題設定に時間をかけて指導すれば内容も深まる。
- ・課題と解決策のズレが埋めれない部分がある。しかし、地域や関係者から助言をもらえることで生徒たちの意欲向上に繋がっている。

○学校教育自己診断結果について

- ・生徒と保護者の結果が昨年より顕著に上向きになっている。
- ・課題は、「自宅学習に向かう姿勢」がなかなか増加しないこと。対策として今年度初めて校内予備校を実施し、参加生徒の意欲向上が顕著だと聞いた。今後も続けると教員も刺激になってよい。

○令和6年度学校評価案及び令和7年度学校経営計画案について

- ・令和10年度より入学者選抜入試方法が改正。アドミッションポリシーで先に合格させるようになる。来年度当初に本校の選抜基準を明示する予定。
- ・大学で総合型選抜を実施して良かったと評価している。証明書を添付して面接をされていて感じたことは、例えばボランティア活動で、実際に長期に取り組んでいるかは作文や面接で容易に分かり判断基準になる。
- ・中学校ではこれから受験が始まる。私学への専願がとて多くなっている。通学の利便さや無償化の影響を感じた。公立高校で偏差値を下げて出願するのなら、私学で面倒を見てもらうほうが良いと判断しているように感じる。
- ・中学校でもストレスチェックをしているが「同僚性が高い」部分が嬉しいと感じる。
- ・生徒たちから「風をおこす」というフレーズが聞けることが嬉しい。シンプル・イズ・ベストだと思うのでぜひ言い続けてほしい。
- ・ストレスチェックの値が驚愕的に素晴らしい。心の余裕があると生徒に向けて力を発揮できる。
- ・校内予備校について、教員が一緒に参加することでまた授業意欲への向上にもつながっていると感じた。
- ・私学に進学する生徒が多くなっているが、今宮でしかやっていないことを大切にしてほしい。地域と繋がっている等、生徒が成長できる（生きていく術）を理解してもらえると保護者も見てくれるはず。+
- ・校長先生の話にもあったがなかなか勉強はしてくれない。しかし、興味があることには生き生きと追及していると感じている。総合学科であることと自由な校風が、したいことができる環境を与えていると感じる。追及できる力は未来を切り拓く力になるだろう。
- ・「風をおこす」→「波をおこす」はどうか。波紋して広がっていくイメージもよいと感じた。
- ・中学校でも部活動について状況が変わってきている。強いクラブを「卓越クラブ」として絞ったので、なくなったクラブは大変になった。状況が変わってきているので、「生徒主導型（自立型）」に2年前から変更した。そこから成績も上がってきている現状がある。
- ・大学の紹介動画を見て進学を決定した生徒もいたので、高校も動画配信を検討したらよいと思う。

府立今宮高等学校

整っている」98.1％〔R5：96.1％〕、教職員⑩「学校は生徒のプライバシーや個人情報を守っている」90.4％〔R5：94.1％〕これらの項目は100％で当然という認識を持って継続して真摯に取り組む。	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価（〔 〕内はR5の数値）

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R5年度値〕	自己評価
1. 誠実剛毅に高い志を持って学び続け、自らの進路を切り拓く力の育成	（１）高い知性と確かな学力の育成 ア 授業改革の推進	（１） ア 「指導と評価の一体化」を進め、「思考力・判断力・表現力」の伸長を重視した授業改善を全校で取り組む。	（１） ア 生徒自己診断「先生方は授業に熱心」の肯定率87％以上〔86％〕、「授業で自分の考えをまとめ発表することがよくある」の肯定率90％以上を維持〔93％〕 ・第2回授業アンケートの質問8、9の平均値3.33以上〔3.325〕	（１） ア 「授業に熱心」86.4％（△）、「よく発表する」89.5％（△）。僅かに目標値に達しなかったが高い肯定率を維持している。 ・第2回授業アンケート質問8、9の平均値3.345（○）より適切な観点別評価ができるようになってきた。
	イ ICT活用の充実	イ 新しい電子黒板の機能を有効に活用し、より効率的な授業を実施する。	イ 生徒自己診断「有効に ICT 機器を活用」の肯定率90％以上を維持〔90％〕	イ 「ICT 機器を活用」91.6％（○）学校支援クラウドサービスを十分活用した。
	（２）豊かな知性を磨く教育課程の編成 ア 特長ある教育課程の編成	（２） ア 「したい授業・学びたい授業」ができる教育課程策定のための資料の収集・分析し、課題と到達点を共有する。	（２） ア 教職員自己診断「めざす学校像実現のために教職員は同僚性を高め協力する」の肯定率80％以上を維持〔84％〕	（２） ア 「同僚性を高め協力」84.6％（○）目標は達成。概ね良好な職員集団が形成されていると評価できる。
	イ 科目選択指導の充実	イ 教科・学年・分掌の協働によるきめ細やかな科目選択指導を行う。	イ 生徒自己診断「科目選択の決定についての説明や相談は十分」の肯定率85％以上を維持〔85％〕	イ 「科目選択のガイダンスは十分」88.9％（○）目標達成。さらに教科・学年・分掌の協働を心掛けたガイダンスに努める。
	（３）学び続ける力の育成 ア 規則正しい生活習慣の確立	（３） ア 誠実剛毅に授業に向かう姿勢をつくる指導を全教員で行う。	（３） ア 遅刻者数を前年度の90％以下にする〔4,056回〕	（３） ア 遅刻者数3,767回（△）改善したが7％減にとどまった。
	イ きめ細やかな学習指導	イ 学力生活実態調査結果を分析し年間通してきめ細やかな学習指導を行う。	イ 生徒自己診断「授業を大切にするようになった」の肯定率83％以上〔82％〕	イ 「授業を大切」85.7％（○）継続して学ぶ意欲を高める授業改善に努める。
	ウ 自学自習習慣の定着	ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す。	ウ 生徒自己診断「家庭学習を毎日した」の肯定率38％以上〔36％〕	ウ 「家庭学習を毎日」36.4％（△）さまざまな場面での意識付けに努める。
	（４）キャリア教育の充実 ア 進路指導体制の充実	（４） ア 分掌・学年・教科の協働による3年間の進路指導体制を確立する。	（４） ア 生徒自己診断「自分の進路選択ができた」の肯定率82％以上〔80％〕	（４） ア 「進路選択ができた」88.4％（◎）さらに丁寧な進路指導に努める。
	イ 体験型進路学習の充実	イ 1年大学訪問や各分野で活躍する外部講師による学びを通じてキャリア形成を支援する。	イ 生徒自己診断「働くことの意味や職業について考え理解が深まった」の肯定率84％を維持〔84％〕	イ 「働くことの意味」87.4％（○）大学訪問や高大連携等で考える機会を増やす。
	ウ 進学講習の充実	ウ 教育産業による校内講習を導入する等、全校的な取組みとして進学講習を充実し、より高い学力向上を促す。	ウ 生徒自己診断「進路実現に必要な力がついた」の肯定率68％以上〔67％〕、「大学について理解できた」の肯定率88％以上〔88％〕国公立及び難関私立大学合格者の合計140名以上〔145名〕	ウ 「進路実現に必要な力」82.8％（◎）教育産業による校内冬期講習を実施。「大学を理解」90.9％（○）、国公立及び難関私立大学合格者の合計268名（◎）
2. ともに切磋琢磨し、清清澄澗とした校風を創る力の育成	（１）自主自律の精神の育成 ア 規範意識の向上	（１） ア 18歳成年を意識した学び（権利と義務、政治参画等）を積極的に行う。	（１） ア 生徒自己診断「積極的にルールへの遵守やマナーの向上に努めた」の肯定率90％以上を維持〔93％〕	（１） ア 「ルールへの遵守」91.7％（○）服装自主規制について主体的に考えさせ、自主自律の精神の涵養を図る。
	イ 成人に求められる資質の育成	イ 2年次で外部講師による消費者教育を実施する他、健全な勤労観や職業観を醸成する取組を行う。	イ 生徒自己診断「今宮高校で学んで人として成長した」の肯定率89％以上〔86％〕	イ 「人として成長」89.1％（○）11月に著名な外部講師による金融経済教育を実施し、健全な勤労観を培った。
	（２）生徒自治会活動の充実 ア 生徒自治会組織の強化	（２） ア 生徒自治会組織による自立した学校行事等の企画・運営を行う。	（２） ア 生徒自己診断「学校行事に積極的に参加」の肯定率90％以上を維持〔91％〕	（２） ア 「学校行事に積極的に」91.4％（○）自立した生徒自治会組織作りを進める。
	イ 自立した生徒集団の育成	イ 生徒が主体となって全生徒が安心できる居場所となるクラスや学校づくりを行える生徒集団を育成する。	イ 「学校行事やホームルームは活発で積極的に関わった」の肯定率84％以上〔83％〕	イ 「ホームルームは活発」86.5％（○）共生生徒とともに活動する機会を増やし、インクルーシブを充実させる。
	（３）部活動の充実 ア 主体的な部活動の充実	（３） ア 基本方針に沿った生徒が主体の部活動の支援を行う。	（３） ア 生徒自己診断「部活動を熱心に取り組んだ」の肯定率72％以上〔70％〕	（３） ア 「部活動に熱心」70.5％（△）働き方改革が進む中で高い水準を維持している。
	イ 地域貢献の拡充	イ 近隣の保育園等への出前演奏会や地域のイベントへの参加等、部活動による地域貢献の機会を拡充する。	イ 部活動による地域貢献活動の回数述べ8回以上〔6回〕	イ 吹奏楽部、ダンス部、軽音フォーク部の地域イベントへの参加など新たな活動が盛んに行われた。12回（◎）

府立今宮高等学校

3. 自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力の育成	(1) 探究学習の充実 ア 問いを立てる力の育成 イ 探究学習の深化 (2)情報リテラシーの育成 ア 適切な情報の収集・選択・活用能力の育成 イ 編集・発信力の育成	(1) ア 総探・産社委員会と学年、進路指導部が協働し、3年間を見据えた効果的な学習プログラムを実践する。 イ 地域や大学等の支援を受けながら学習する仕組みを作る。 (2) ア インターネットからの情報を適切に扱うとともに、実体験等それに頼らずに探究する力を育成する。 イ 生成 AI に真似できない発信する力を育成する。	(1) ア 生徒自己診断「自ら課題を発見し、社会を変革する力がついた」の肯定率75%以上〔72%〕 イ 中間発表会の設定等、発表までの間に探究を深める機会を年1回設ける。 (2) ア 生徒自己診断『「産社・未来探究」で探究的な学びができた」の肯定率84%以上を維持〔84%〕 イ 生成 AI について学び体験する機会を年1回設ける。	(1) ア 「社会を変革する力」78.2% (○) 学習プログラムが計画的に行われるようになり、定着してきた。 イ 学校運営協議委員による中間発表会を1回行い、探究が深まった。(○) (2) ア 「探究的な学び」87.7% (○) フィールドワークや職業人インタビュー等を通じて探究を深めることができた。 イ 生成 AI について学べる環境整備ができなかった。次年度に持ち越す。(△)
	(1)インクルーシブ教育の推進 ア 共生推進教室の充実 イ 仲間づくりの推進 (2) 人権教育の充実 ア 体験的人権学習の充実 イ 職員人権研修の充実 (3)国際交流の推進及び英語運用能力の向上 ア 姉妹校との交流の充実 イ ユネスコ・スクールの実践的な取り組みの着手 ウ 英語運用能力の向上 (4) 令和6年度学校経営推進費事業『「風を起こす」一すべての人を大切に、真に共生社会をリードする人材育成校の実現と発信～ともに学び、ともに育つインクルーシブルームとリラックスルームの設置」の実施	(1) ア 共生推進教室生のカリキュラム及び学習支援を充実し、インクルーシブ教育を推進する。 イ ボッチャ大会等の仲間づくりの機会を増やすとともに、互いの違いを認め合うクラスづくりに目を向け、能動的に取り組む生徒を育成する。 (2) ア 様々な人権問題について、講演やフィールドワーク等を通じて当事者意識をもって行動する資質を育む。 イ 新年度当初に講師を招いて新着任対象フィールドワークを実施する。 (3) ア 7月にキャミアック高校との4日間の交流を本校にて実施する。 イ ユネスコ・スクールの具体的な取り組みを行い、探究学習に反映させる。 ウ 1,2年英検全員等、英語運用能力向上の取り組みを組織的に実施する。 (4) ア「インクルーシブルーム」「リラックスルーム」を創設し、その活用や、支援教育、教育相談の教職員研修を実施し、本校全体でめざす授業について教職員が共有する。 イ「インクルーシブルーム」のを活用した模擬授業を実践する。 ウ「インクルーシブルーム」「リラックスルーム」を活用した、生徒の居場所づくり、交流の場となるイベントを企画する。	(1) ア 生徒自己診断『「ともに学びともに育つ」大切さを学ぶ機会があった」の肯定率86%以上〔85%〕 イ 生徒自己診断「互いに協力して良いクラスづくりを進めることができた」の肯定率85%以上を維持〔85%〕 (2) ア 「命の大切さや人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」の肯定率90%以上を維持〔92%〕 イ フィールドワークの参加15名以上 (3) ア 生徒自己診断「国際交流に力を入れている」の肯定率90%を維持〔90%〕 イ「ユネスコスクール・SDGsの取り組みを推進している」の肯定率80%以上〔77%〕 ウ 英検2級以上の合格者25%〔8.8%〕 (4) ア 教職員自己診断「本校がめざす学校像を実現するため同僚性を高め協力して教育活動を行う」の肯定率85%〔84%〕 共生推進教室卒業生アンケートにおける「共生推進教室設置校で学んだこと」の肯定感8.0以上〔R4:7.5 R5:該当なし〕 共生生徒と総合学科生徒が集う「仲間の会」の発足。会員15人以上。 イ 学校教育自己診断（生徒）での「障がいのある人たちと『ともに学び、ともに育つ』大切さを学ぶ機会がある」の肯定率88%〔85%〕 ウ 共生生徒主催のイベントを年6回行う。〔4回〕	(1) ア 「ともに学びともに育つ機会」89.4% (○) 共生生徒が増え、主に実習系の選択科目でともに学ぶ機会が多くなった。 イ 「協力して良いクラスづくり」89.5% (○) ボッチャ大会や七夕飾り、クリスマス会、ステンドグラス制作等に前年度より多くの生徒が参加し、盛況だった。 (2) ア 「人権を尊重」94.6% (○) さまざまな人権問題について講演を聴き学ぶ機会を設けた。 イ 春のフィールドワークに加え、新たに秋にもフィールドワークを実施27名 (○) (3) ア 「国際交流に力」92.8% (○) キャミアック高校との交流を盛大に行った。 イ 「SDGsの取り組みを推進」78.0% (△) 働き方改革の観点からユネスコスクールから脱退した。海外姉妹校3校との交流活動の充実に努める。 ウ 生徒の実情に鑑み希望者による校内実施に変更した。2年次13% (△) (4) ア 「同僚性を高め協力」84.6%であったが、ストレスチェック結果の「同僚からのサポート」偏差値72、「上司からのサポート」偏差値76と極めて良好であった。(○) 共生生徒卒業生アンケート9.1 (◎) 7月に「仲間の会」を発足。会員は実質15人以上。(○) 活動実績を積み上げていく。 イ 「ともに学び、ともに育つ」89.4%(○) 整備したインクルーシブルームのフレキシブルな活用について検討中。 ウ 七夕飾り、文化祭での出店、クッキー店、ボッチャ大会、ステンドグラス制作、クリスマス会の6回実施。多くの生徒が集まった。(○)

府立今宮高等学校

5. VUCAの時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成	(1)同僚性の高い職場づくりの推進	(1)	(1)	(1)
	ア 協働体制の確立	ア 運営委員会を軸に分掌・学年・教科等の連携を強固にする体制を築く。	ア 教職員自己診断「運営委員会は充分に機能」の肯定率 90％を維持〔96%〕	ア 「運営委員会は十分に機能」 96.2％ (◎) 学校運営の中核機関として評価。
	イ 危機管理体制の確立	イ 校務分担の再構築を行い、生徒のセーフティネットの充実等、安全・安心に寄与する体制を整える。	イ 教職員自己診断「組織的に対応できる体制が整っている」の肯定率 90％以上を維持〔96%〕	イ 「組織的に対応できる体制」 98.1％ (◎) 組織力の向上が認められる。
	ウ 職員研修の充実	ウ 喫緊の課題に関する職員研修を効率よく組み入れ。職員集団の機動力と緻密さを向上する。	ウ 教職員自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」の肯定率 80％以上を維持〔90%〕	ウ 「校内研修組織が確立」 92.3％ (◎) 研修の目的が教職員のニーズに合致していると評価できる。
	エ 実働防災訓練の実施	エ 地域と連携した実働防災訓練を計画する。	エ 教職員自己診断「地震や災害の際の対応を十分に知らせている」の肯定率 90％以上を維持〔92%〕	エ 「地震や災害時の対応」 90.4％ (○) 地域との連携まではできなかったが、発災時の難易度を上げた訓練を実施した。
	オ 働き方改革の推進	オ ICT 機器の活用を促進し、部活動方針の遵守による教職員の時間外在校等時間の縮減をする等、働き方改革に向けた取組みを進める。	オ 教職員自己診断「ICT 機器を有効に活用」の肯定率 90％以上を維持〔98%〕 教職員の年間時間外在校等時間 720 時間超をゼロにする〔2〕 ストレスチェック総合指数 90 以下を維持〔76〕	オ 「ICT 機器を有効に活用」 100％ (◎) 「時間外在校時間 720 時間以上」 6 人 (△) ストレスチェック総合指数 69(◎) 前年度の大幅な減少に続き、さらに顕著に減少した。
	(2)開かれた学校づくり	(2)	(2)	(2)
	ア ホームページの充実	ア 本校ホームページの更新数を増やし、内容を充実する。	ア 保護者自己診断「ホームページは充実」の肯定率 85％以上を維持〔85%〕	ア 「ホームページは充実」 95.1％ (◎) 更新回数のはのべ 500 回に達している。
	イ 保護者連携の充実	イ 対面とオンデマンドを併用した説明会等により情報発信を充実する。	イ 保護者自己診断「教育情報提供の努力」の肯定率 85％以上を維持〔86%〕	イ 「教育情報提供の努力」 92.5％ (◎) 学校閉庁日以外、毎日提供してきた。
	ウ PTA、同窓会との連携事業の充実	ウ 生徒を主役にした連携事業を充実し、生徒の教育活動を支援する。	ウ 保護者自己診断「PTA 活動は活発」の肯定率 87％以上〔86%〕	ウ 「PTA 活動は活発」 95.1％ (◎) 意欲的に学校支援活動をしてくださった。
	エ 地域連携の拡充と充実	エ 土曜講座の継続実施及び地域活動への生徒や教職員の参画等を積極的に行い、地域との連携を深める。	エ 生徒自己診断「様々な地域の活動に参加・貢献」の肯定率 74％〔72%〕	エ 「地域の活動に貢献」 81.3％ (◎) 近隣の病院の花壇整備など部活動の他に志願者による新たな取組みを行うことができた。